

全国まなべ会会報

編集と発行 全国まなべ会広報部 事務所

〒764-0023 香川県多度津町若葉町9-13
TEL & FAX 0877(33)4512



令和6年5月26日(日)～27日(月) 大歩危峡まんなか にて

はびめに

令和六年の気候は大変な異常気象となつています。春を通り越して夏が到来したようでもあり、また残暑が厳しいことから秋を素通りして冬になるとも言われています。日本の季節は、今後夏と冬の二季節になるとも言う人もおられます。

阿波大会が終わったこの八月においては、いつのまにか新型コロナウイルス感染症は第十一波が急増しているとも言われている。この大きな事態に対して、為政者たちの危機管理意識は甚だ薄くて、国民の生活や健康を保持するために身を挺して守り切るのではありませんか。

お互い安寧な楽しい生活のために規則が出来ているのでありますが、国民目線と違って、世の先導者たちは抜け道を作って自己利益を優先確保する状態にあります。また国内外ともにフェイクニュースが交信される現状では、益々混沌を極めた不安定な時代に至るのではなからうか。

さてこの大きな変革の時代の中にあっても、真摯な気持ちで美しい伝統を紡ぎ継承してきた先輩たちの実績を、わたし達は

後世に記録として残さねばならないと思います。このような時代の趨勢から、わたし達が保持している伝統の継承は困難な状況に至っております。さりながら、今回、阿波まなべ会の皆様におかれましては、立派な企画と実践を試みされました。今回の会報誌で「第四十一回全国まなべ会阿波大会」の実績を上手く発信できればと思いますが、この暑さの故、遅々として筆は進みませんでした。しかしながら何とか出来上がりましたのでお送りいたします。ご高覧下さい。

國六記

車掌さんの帽子をかぶって「出発進行」



ご挨拶



全国まなべ会会長
真鍋 梅美氏

本日、全国まなべ会第41回阿波大会が、全国各地から多数の会員のご参加をえて、このように盛大且つ和やかに開催されますことは誠に喜ばしいことであります。

阿波まなべ会の皆様には今回の大会に向けて気持ち良く引き受けて下さり、また、大会準備委員会を重ねて開催し大変すばらしい大会にして頂き有難う御座います。

阿波まなべ会での全国大会開催は初回は第4回、昭和59年9月であります。今回で4回目の開催であります。最初に開催された「全国まなべ会阿波大会」は私にとって忘れることの出来ない大会であります。

大会の前に全国まなべ会の役員の方々が、熱海の市長さんを訪問してくださり池田市の真鍋市長からのメッセージを渡して頂きました。夜は後樂園に宿泊しましたが、今は亡き五郎会長や藤治会長、常麻美代子さん、それと初めて伊予千足神社の宮司さんも出席頂きました。また、阿波大会には、熱海市長のメッセージを大会上で池田市長に読み上げ手渡ししました。また、池田高校に行き野球の選手達と写真をとりました。当時、修様が美馬中学の野球部の先生だったからです。修様は後に四国体育連の会長となり活躍され、まなべ会にとっては本当に大事なお方です。このように全国大会は41回を重ねてまいりましたが、私にとって阿波での大会は思い出深い大会であります。

終わりにになりましたが、この大会を担当していただいた阿波まなべ会の皆様のご苦勞に感謝し、全国まなべ会と各地区の益々の隆盛と全国のまなべさんのご多幸、ご健勝をお祈り致しましてご挨拶と致します。



乾杯の音頭をとる
和 三郎さん

阿波大会の想いで

第四十一回阿波大会は五月二十六日、二十七日の両日、徳島県三好市の大步危地区を中心に執り行われた。今回の大会は真鍋美会長就任後の初回大会であった。

総会の前に行われた副会長会では、事務局から配布された「議案書」の内容に沿って事務局長司会により議題が提供され、質疑応答がされた。

以下簡潔に報告をいたします。令和五年度の事業としては、今回の阿波大会開催の準備であった。この三年間は、コロナ感染問題から、全国大会が開催されずに来たが、やっと昨年岡山大会が岡山県玉野市の渋川で復活開催された。続いて今年の大

会は開催地の選定に手間取り、やっと阿波まなべ会のご支援、ご協力により、三好市の大步危で開催されることになった。

ご承知のごとく、近年国内においても高齢化が進んでいます。我がまなべ会においても同様であり、地区においては全国大会開催を引きうける余力が小さくなって来ている状況です。勢い本部執行部との協働作業が不可避となってきました。今回もこのやり方で実施されました

が、来年の四十二回全国大会でも、今回の副会長会議で伊予まなべ会の担当で共同開催することが決まりました。

また財政部の決算については、例年決算収支については、会員諸氏の高齢化により会費納付実績の減少により単年度収支で赤字となつて来ています。しかしこれまでの繰り越し積み立て剰余金の中から補充させていただきました。また、今回の翌日観光計画はJR観光列車の利用のため予算計上が大きくなり、従来の補助金十万円にプラス二十万円上乗せでの予算計上となりました。

今後の財政事情を勘案すれば、会員増強問題がありますが、これにつきましては各地区の取り組みやSM利用のインターネットでのPR勧誘活動も一層推進し、会員増加を図らねばならない状況になっている。

さて総会の概要について述べさせていただきます。今回全国まなべ会発足後、初めての女性会長が誕生就任され、開会の挨拶をされました。新会長の「真鍋美」さんは、全国会創設時役員のお一人であり、まなべ会と共に歩んできた歴史の生き証人でもあります。かつてここ池田で開催された時には、当時の

静岡熱海市長との直接交流も実現されました。

会長挨拶文を参照ください。

さて総会の前の役員会（副会長会）においては、別紙（11頁）のとおり令和五年度の一般会計決算書及び特別会計の決算書について説明があり、質疑応答がされました。また組織部長の変更では、栄三部長の逝去後空席になっていましたが、今回讃岐会長の真部晴夫氏が推薦され就任されました。今後まなべ会組織の強化に努められることになります。

財政部の決算については、別紙（11頁）通りの状況でありますが、既述の通りの理由で単年度赤字が経常的となつてきました。しかし今後の会員増加を計ることを前提に総会で承認いただきました。今後の会員増強や寄付行為の推進などが要求されますが、先ずもって「全国まなべ会」の存在や事業内容について、広報活動を通じて一般社会からご理解ご支援を得ねばなりません。

総会後は、参加者の集合写真撮影をしてから休憩時間となり、新緑の渓谷を眺めて大步危温泉の湯に浸りながら、一日の疲れを癒し次の懇親会に臨む前まで自由時間を過ごしました。

■ちょっと一息の合間に

まなべ会員の中には、資格や特技を持っている人たちが沢山おられる。ここ阿波まなべ会の事務局長をされている「真鍋隆資」さんは、ヘリコプター操縦の資格を持っておられる。空からの展望を所望し、ビデオを放映して頂きヘリコプターの機器機能や形状そして運行上の各種規約など分かりやすく説明を頂いた。わたし達はヘリに同乗した気分になって大阪湾上空から



鳥の目でもって撮影された下界の景色を恐々して見下ろしている気分になった。幕上に映し出した風景であるが、私たちを空の旅に誘ってくれました。いやはや、なんとも面白い演出を考えてくださり有難うございました。

■懇親会での交流

今回の懇親会には、地元で活



さあ、お楽しみの懇親会の始まりです



会場に現れた妖怪たち

躍されているスタジオF.U.N.の代表、土井様の企画により盛り沢山の演出を頂きました。地域のとても若い女性の歌声グループ「山城AKB」による素敵な歌唱やハワイアンの踊り、阿波踊りなど。またプロ歌手の中川千代子さんの懐メロ演歌、そして地元で売り出し中の妖怪物語に登場する河童などの妖怪が会場に登場して幼児を驚かせましたが、最後は打ち解けて彼らは機嫌よく退場して行きました。

た。

*大会前日には山城の妖怪物語が実行されていました。また大会後日には、山城AKBと元サッカー選手の前園真聖さんとの出会いと両者の踊りの演舞がNHKで後日放映されているのを観ました。

■翌日観光について

翌日の観光では、JR四国の観光列車「四国まんなか千年ものがたり」の観光列車に乗車してゆったりとした溪流と新緑観賞旅を満喫しました。「四国三郎」として名高い山峡の間を流れる吉野川は、日本の三大急流の一つであり、流域の際立った岩石の形成は、地球深部から噴き出した物体の堆積物であります。ここ吉野川は三好市池田町あたりから大きく婉曲して東方面へ流れています。これは大きな地殻変動があったことを証明するものであります。また室戸岬周辺も多くの尖った岩石が海面から顔を出していますが、これとても地球内部での変動を意味しています。

このように地球内部の変動の痕跡が身近に観察できるのは、研究者にとつて良い研究サンプルになるのではないのでしょうか。また、急峻な山間に道路や四国鉄道を貫通させることを明治時代に

考え、唱導した讃岐の偉人「大久保謙之丞」はすごい人物であったことが理解できます。

ところで、観光列車は讃岐財田を通過して阿波の坪尻駅では、昔の列車は別の引き込み線を少し上つてから引き返し、また前方へ進むことになる。いわゆるスイッチバック方式である。今の汽車は馬力が大きくなり、このスイッチバック方式は採らないので珍しい光景となっている。下り勾配のきつい線路をやがて下つてゆくと、阿波池田駅に到着する予定であるが、その手前の吉野川河畔の脇道で地元のパラソニアさんたちが旗を振つてわたし達に歓迎の挨拶をされていました。こちらのわたし達も負けじと、大きなジェスチャーで窓越しに応答しました。

この観光列車は、琴平駅から大歩危駅間を約二時間で運行されているが、今回私達は、琴平から大歩危までの下り便を利用したものです。また逆の上り便も運行されており、それぞれの便では、通常下りは洋食、上りは和食提供のようです。和食を提供されているのが地元東みよし町の割烹「藤本」の和食であり、経営者の藤本さんは和食の世界では知られている調理人で、阿波まなべ会の会合や本部との

連絡会でよく利用させて頂いておりました。

さて、大歩危駅に着いてからは祖谷のかずら橋の見学が予定されており、遠方から参加された方々が利用されました。一方汽車の時間表の関係でわたしたちのグループは帰りの観光列車を利用して、それぞれ各地への帰還とすることになりました。

久方ぶりに贅沢な時間と美味しい食事の嗜みをご提供いただき、関係各位にお礼を申し上げます。つたない報告とさせていただきます。



観光列車でくつろぐ会員



スリル満点のかずら橋

令和六年 各地区からのお便り

紀州白浜まなべ会より



ある土地柄である。

白良浜の近くにある熊野三所神社はこの「真鍋」氏が神官を勤めておられるし、この町では、真鍋、正木、岩城の三氏は親戚などの縁者関係にあり、結束のある氏族です。これ故古くから毎年先祖祭を行っておられる。

この程、祭典の模様を岡山の会長である眞鍋隆氏から送信いただいたので掲載いたします。

*昭和五十七年六月二日に真鍋家先祖八百年記念祭が執り行われましたが、記念誌「浄林」が祭実行委員会より発行されています。



白浜の海岸は広くて

美しい海岸線があり、おまけに温泉とアドベンチャーワールドのパンダなどの動物が、自然に近い環境下で暮らしているのでお子様たちにとっては楽しみの

伊予まなべ会より

伊予の新居浜周辺での戦いは、豊臣と長曾我部の意地を張った四国での最終の戦いであり、熾烈な戦いとなった。両軍合わせて凡そ千人弱の戦死者を数えている。

伊予の戦国大名の金子氏は、豊臣軍の大將を勤める小早川隆景と旧知の仲であったが、金子氏はすでに長曾我部と同盟を結んでおり、この同盟を破棄して小早川氏側へついても良かったのですが、悲しきかな、武士の約束を反故にできなかったのです。

最後の合戦地となった新居浜、周桑郡あたりは難攻不落の山を後ろに控えていたため、攻め方は難渋していたのです。しかし味方の中には裏切る人材

もいたのか、攻め側に秘密の道を教えたのであろう。このため

戦況が変わり、伊予側の敗北となったのであります。来年の伊予の大会では詳細が語られるのでご期待ください。



「天正の陣」千人塚供養法要

讃岐まなべ会より

令和六年度の讃岐まなべ会の活動は、このところのコロナ感染により、事業はこれといったものは有りませんが、讃岐会報誌は毎年継続して発行されています。今年は第二十九号が発行されています。この中では、香川県の誕生に貢献した中野武蔵さんが取り上げられています。それというのも、現在の都道府県の中で、香川県が一番遅く独立県として誕生したものです。香川県の高松は、徳川本家と関わりの深い水戸の徳川家から分家誕生したものです。従って徳川末期には徳川親藩であり、最後の殿様の奥方は井伊直弼の息女だったことでもあり、討幕派と対立関係にありました。そこで奥方を一度離縁して藩内を統一しようとはしますが、内紛で藩内は統一できていませんでした。その後の鳥羽伏見の戦いにおいて、高松藩の対応がまずく、新政府の敵対勢力と見做されたため、新政府において独立県の誕生が遅れてしまうことになるのです。

ところで、紀州と水戸の初代藩主の生母は家康の側室「お万の方」であります。このお万様の弟、三浦貞利（為春とも言う）が真鍋家の娘と結ばれ、出来た子供の貞留が真鍋家を継いでおります。

*織田信長の水軍大將、眞鍋貞友の子供である眞鍋貞成の娘婿である三浦貞利（正木貞利）は紀州藩の家老になっている。



讃岐まなべ会会報29号

岡山まなべ会より

先般、地元放送会社のRNC(西日本放送)が、瀬戸内の島々を紹介する新番組で、わたし達の「真鍋島」が第一回目の島として取り上げられました。この様子は二回に亘って放映されましたが、局の若手亀山アナは、都合48時間で真鍋島に係わる紹介をストーリーにまとめ上げるといふ条件付きの制作事業でありました。瀬戸内において歴史と文化を蓄積してきた真鍋島が大きく宣伝され、PR効果は大変大きかったと思います。まず一番には昭和二十四年に建設された真鍋中学校の木造校舎です。この中学校などが登場した昭和59年に放映された篠田正浩監督の「瀬戸内少年野球団」が有名です。主演女優は夏目雅子さんでした。またこの中学校には恐竜博士で有名な東京国立博物館副館長の真鍋真さんが中学時代に一年間島内留学して来ておりました。次には、国の登録有形文化財に指定されている真鍋家住宅が紹介されました。この屋敷にはポルトガル原産とされている「ホルトの樹」が庭で大きく



真鍋島

録有形文化財に指定されている真鍋家住宅が紹介されました。この屋敷にはポルトガル原産とされている「ホルトの樹」が庭で大きく

繁茂しているのが紹介されました。また時代を象徴する甲冑などが撮影されました。そして真鍋家の檀家寺である円福寺や「モトエカフェ」そして走り神輿の出発地点である氏神の八幡様が紹介されていました。

*真鍋家の紹介は、当家の真鍋芳男(本部事務局次長)さんがされていきました。残念なこと



に、先だつての阿波大会後の七月に急逝されました。残念至極であります。謹んでお悔み申し上げ、存命中のご尽力に対して衷心より感謝の意を表します。



オーストリアより

今年は、年頭から能登半島の地殻変動による大きな地震が発生しました。横へ地殻変動があったため、全体復旧には大きな時間がかかりそうです。大変悲しいことになりました。

早速に暑中お見舞いの書信をいただき有難うございました。ところで今年は、以前に増して大変暑い毎日を過ごしています。それ故、一昼夜を通して空調機を稼働させております。また水の節約のために、昨晚の湯船の残り水を捨てずに、翌朝余った水をバケツで外の甕に水を運んで入れる毎日です。若い頃は田舎にいて、水の大切さをいやというほど経験したからであります。田舎の田んぼは「おんごろもち(モグラ)」が居て池から水をいくら引いても、水漏れをしていたからです。穴の補修と、田んぼから池まで何回も往復したものです。池の水は水路を変更され、いつも正常には来なかったからです。これが私の学生頃の田舎の水の無い現状でした。

ところで阿波大会は、通常より少ない参加者でしたが、内容は充実したものと皆さん大変満足されて帰られたものと思います。その後はご承知のように猛暑日連続のため、気落ちして会報誌作りも進まない状況でした。しかし、気分転換しながらやつと毎日クーラーの冷氣の中でパソコン作業を進めています。さりながら、少し脱線しながらの内容になっておりますがご容赦ください。

さて気候の方も狂っているようで、来年も自然環境の悪化は不可避でしょう。人類は拡大発展を進めるでしょう。成長から安定安心の社会経済の道へ進むよう祈念したく思います。

SDGsを標榜する時代ですから自然との共生を願いたいと思います。

……川を汚せば川からシッペ返しを受けるのである……
お孫さんはじめ皆さんの明るい笑顔が目に見え、まいります。ご健勝をお祈りいたします。

真鍋賢二先生を悼む

元環境庁長官をされていた真鍋賢二様が今年早々逝去された。先生を偲んでのお別れ会がこの5月8日に高松市の公益会館で執り行われ、各界から多くの関係者が先生のご逝去を悼み、併せて多大な業績に感謝の意を表して前面に掲げられた肖像画に惜別の挨拶をされたのであった。

想いおこすと、平成十年9月の金毘羅大会が開催された時には、真鍋賢二さんが環境庁長官、真鍋武紀さんが香川県知事、そして真部善美さんは香川県会議長に就任されたという、讃岐まなべ会にとつて大変華やか絶頂の時代であったと思う。

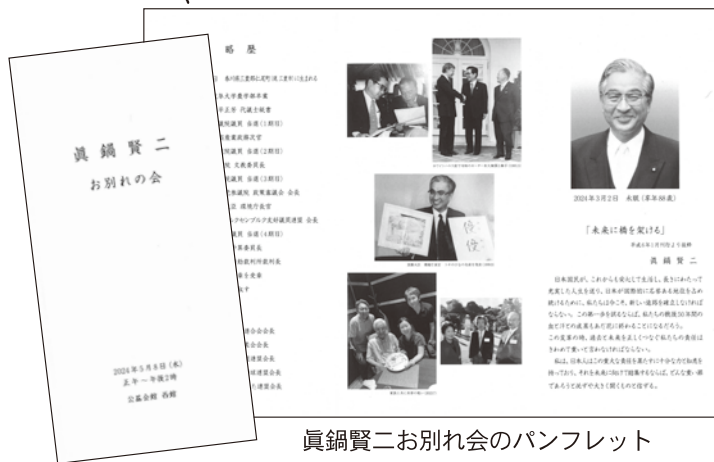
賢二さんが就任されていた環境庁は、例の熊本県にある水俣市の化学会社からの廃液排出を起因とした公害問題に対処する目的で新省庁として創設された時代対応の新しい機関であった。このころ名古屋の藤前干潟においてごみ処

分場問題が惹起していたが、この件について世論共々「開発にノー」に至って解決しているが、もし開発方向で推進されていれば、今では大変な状況になっていたかもしれない。

また知事に就任された真鍋武紀さんにあつては、豊島ごみ問題についてそれ以前の知事時代からの懸案であつた公害案件を誠実真摯に対応され見事に解決されている。

両案件とも、現在では大きな社会問題化している環境関連の事案であり、地味で解決には時間のかかる仕事である。しかし両真鍋氏は、根気よく誠実真摯に前面に立つて解決した重大案件であつた。これを解決に導いたことは歴史に上特筆されるものであり、わたしども「まなべ会」とつて誇りとすべき歴史事実である。

ところで、賢二さんはわたしと同郷の香川県三豊市仁尾町のご出身であり、生家は農業をされていた。その関係で岐阜大学の農学部へ進学されていた。実姉さんが嫁がれていたのが、当時代議士をされていた大平正芳先生の長姉「石川ムメ」さん宅と親戚であつた。これが機縁となつて大学卒業後には一般会社には就職せず、大平先生の公設秘書に就くことになつたものである。



真鍋賢二お別れの会のパンフレット

秘書官として躍っていた。秘書官としての実績を充分重ねられた後には、周囲から国会議員として貢献されるよう勧められ、初めて参議院議員選挙に立候補することになった。その時の後援会会長には、高松市の三宅病院長三宅徳三郎氏が重責を担うことになった。徳三郎氏は旧制三豊中学高（現在の観音寺一高）のご先輩であり、また三宅先生の奥様の里は仁尾町片山地区の出身という関係であつた。参議院議員初選挙の折には、当時仁尾の人達は彼を国会議員に当選させた、香川県下をローラー作戦により活動を行っていた。町民全員一丸となつての活動により当選することが出来たのであるが、仁尾町始まって以来の初国会議員の誕生であつた。町民にとって大変な誇りであつた。

賢二さんの父上は先の大戦で戦死しておられ、大変苦勞されたのではなからうか。戦没者の墓がわたしの里のすぐ近くの山上のところにあつて、よく皆さんが墓参されるのを観たことがあつた。賢二

さん宅は、戦前には多くの田畑を持つておられたが、戦後の農地解放により、多く失つたのではなからうか。戦後長男の方である進さんが農業を継がれていた。末っ子の勇子さんは地元の銀行に勤めていたが、筆者と一時仕事を一緒にしていた。勇子さんが就職の折には、私に色々兄様の進さんから仕事業務などについて照会されたことを想いだすのである。

ところでわたし達の「まなべ会」活動においては、賢二さんは創立期からのメンバーであり、組織拡充に大変ご尽力頂いていたのであります。これまで讃岐の年次総会等には郷土に帰省され、わたし達と親睦交流を重ねてこられたのであるが、今年の初頭、突然にご逝去された。新聞での訃報記事に只々驚いた次第であります。まなべ会の巨星が宇宙の明星になったのである。これまでのご支援ご鞭撻に感謝の意を表するとともに、今後とも温かく見守りいただきゆつくりとお休みください。

阿波地方や瀬戸内地域の歴史を訪ねて

（平安末期の源平合戦後から）

壇ノ浦の戦いが終了したが、平家方の女房や女官たちは救われて命を長らえることになる。建礼門院や近くに侍っていた近親女御の運命はどうなったのであろうか。この中に阿波内侍信子があった。彼女は、後白河の近臣である信西（俗名藤原通憲）と、後白河の乳母をしていた紀井二位朝子との間に生まれた娘である。朝子は阿波の出身である。彼女は京都の寂光院でひっそりと住む建礼門院を見守って生活していた。「平家物語」の終章の段に登場している。時代の波に流されてきた建礼門院を後白河院が訪ねたとき、「ひとやある」と案内を乞うと、女院は不在で阿波内侍が出てきたが、



阿波内侍信子

院はしばらく思い出せなかった。

しかし院のお尋ねには佛理を語る不思議な尼よと、「汝は如何なるものぞ」と仰せられても、さめざめと泣いてしばしは返事も出来なかったが、「信西が娘で、母は法皇様の乳母の紀井二位。私を忘れさせ給うにつけても身の衰えの程おぼえられます」と偲び泣いたという。この節が最終章のクライマックスシーンとなっている。

＊建礼門院は平清盛の娘であり、安徳天皇の母親であった。清盛の死後、平家一門は崩壊してゆく。

＊阿波内侍は美馬にある願勝寺中興の祖と言われている。

＊崇徳院藏人・藤原信西を真鍋氏祖とする説がある。

（関東武士たちの西国移行）

この大きな時代変革の後には、関東など東国から西国に武士たちの大きな移動があった。鎌倉から室町時代前期にかけて守護・地頭の職を得た武士たちは、西国へ赴任すること

になった。ここ阿波においても小笠原氏がやってきている。その一部が後の三好氏を名乗るのである。彼らは、阿波西部地域の支配者としてここに土着することにより、小笠原氏からその後、三好氏へ改姓することになる。三好長慶あたりが氏族系統の絶頂期と言えるであろう。

（公家荘園と地頭支配地の軋轢）

この時代は公家社会と武士階級の混在した時代であったため、荘園支配地と地頭などの支配地が併存していた。今の時代もそうであるが、土地の境界に関するもつれからくる係争事件が多い事である。荘園支配地の役人と地頭職武士との相克に発展することがこの時期多くなってきた。武士の力がこの時期強くなってきたから、武力による支配が起こっている。鎌倉武士の襲撃で殺される荘園管理武士があつたのである。この事例で有名な事件としては岡山的美作国（久米南町）で発生している。この公家荘園の管理者の息子である「法然」



浄土宗の開祖 法然上人

が九歳の時である。後の浄土宗開祖の「法然」である。彼の父は復讐を考えず仏門に入るよう言い残して死亡した。息子は父の弟である叔父のお寺に預けられここで修行する。法然の才能を見出した叔父は、彼が十五歳になった時、比叡山に送り法然は出家することになる。ここで叡空のもとに入門し、法然房源空と名を改める。その後修業を重ね浄土宗の開祖となる。

（混沌化時代の宗教伝播）

さて地方へ下った武家たちの中では国人として、その地域で勢力を樹立することになる武家たちが多くいた。阿波の美馬地方においても、千葉氏は関東からこの地に移住してきて浄土宗から派生した浄土真宗を広めている。この一

族が阿讃山脈を越えて讃岐に入っている。讃岐の中讃地域に浄土真宗のお寺が多いのが判る。千葉氏は武家の出であり、ここ美馬にある安楽寺の僧侶である。この寺には能舞台が設えてある。関東発出の武士であることが分かる。

（職業化する武士たち）

戦国時代を終えて安土桃山時代を迎えると武士たちの土地定着化が進み、また今までの農民で武士化を選択しない者は農業専属となった。この政策は豊臣時代に農民から武器である刀を没収して身分化を明確にしたものである。

＊戦国時代ごろは武士農民の境はなく、土地を保有していた農人の中では、いざ鎌倉の時に槍や刀を持って親方に従い戦場に赴いていたのである。忙しい農繁期の戦争は嫌っていたものであり、武田信玄の親は農繁期に関係なく戦争したものだから、信を失い失脚したとも言われている。秀吉の時代に刀狩を行い、士農分離を行ったものである。

〔有力武士たちの四国流入〕

この戦国流動化の時代を終えて、四国近辺においては尾張名古屋・岐阜周辺、三河、近江から多くの武士たちが支配藩主として流入して来ている。三好、香川氏、生駒氏、蜂須賀氏、山内氏、福島正則、加藤嘉明らが四国に入っているが、特に伊予の東予地域は藩主の変動が激しかったことで、民生は安定しなかった。

この時期においてわたしどもの「まなべ」氏の一部は土佐へ逃れていたものであるが、豊臣の支配時代となつて、東予地域の安定化のために帰還している。今の新居浜、四国中央市あたりでは神官や庄屋としての務めをしていた人達が見られる。真鍋氏について述べると、新居浜の中村郡では大庄屋を、そして金子村では庄屋を勤めていた。

〔武家時代の産業経済面の観察〕

江戸時代の初期は政権が不安定であり、三代目の時期あたりから、外様有力藩主への難癖締め付けにより徳川政権の統治マネジメントは落ち着いてきている。しかし土地支

配を委任された藩主たちにとっては、藩経営の鼎の軽重を問われることになる。藩内に有力資産があるかどうかで藩財政確立の難しさが左右されるからである。

江戸中期頃になると、農業を基盤とする農本経済から商業を基盤とした商業資本経済への比重が大きくなり、また各藩の財政状態も厳しくなつてきていた。このため各藩において財政改革問題が急がれることになる。各藩内においては、藩政改革のため有能な人財の発掘登用を試みているところもある。例えば徳川幕府自体においても、第六代將軍の家宣の時には、間部詮房がお側用人となつて新井白石を登用している。しかし白石は実務に精通していない理念



第六代將軍の徳川家宣



第八代將軍の徳川吉宗

派の人物であつたため、財政改革面では無理があつたようである。次の八代將軍吉宗は紀州での現場実績が有つたため少し好転したようである。如何様にしても、財政経済の好転を志向しても、この時代の武家役人の硬直さは、時代の転換期の政策実行には、まま通用しなかつたことが多いことである。

〔各藩の政治・財政改革について〕

ところで江戸幕末期頃を迎えた変動期の成功事例では、備前松山藩の儒学者・陽明学者の「山田方谷」による藩財政改革は特筆すべきものであつたと言える。この中核は、藩内で産出される砂鉄に付加価値を付与して、農機具の三目鍬などを生産し、需要の大きい江戸で販売し大きな蓄財

が出来たことである。その地域の資産である砂鉄を原形のまま販売せずに、付加価値を付与して農機具を生産したことである。そのための鉄工所を作り、周辺地域から若者を移住させ、彼らに妻帯させて人口増も図っている。この財政改革を成功させた「山田方谷」の名声を聞いた越後上越藩の河井継之助は、備前松山藩の山田方谷を訪ね手法と理念を勉強するため弟子入りしている。そして河井は自藩の政治財政改革に成功している。一方越後の上杉鷹山の改革も有名であるが、改革完了には凡そ五十年の歳月を要しているのである。

〔四国の各藩では〕

四国地域においては、阿波藩では「阿波藍」や木材の産出、海産物、阿波の刻みたばこ、阿波和紙などの産物があつたため、藩



山田方谷

〔自然環境と産物について〕

政を豊かにしていた。特に、阿波藍の販売は藩財政の基盤の中心をなしていた。一方、高松藩では表面十二万石であつたが、実態では二十万石高の支配実力を持つていたようである。しかし讃岐の西讃京極藩では、藩内に有力資産はほとんど無くて、財政的には苦しかったようである。ただ、西部の燧灘に面した「仁保・現在の三豊市仁尾町」という港町があり、この海域は当時としては桜鯛で有名な領域であり、当時は海産物品取引の盛んな町であつた。商人の大名貸し付けがあり、明治維新後はこれが裏目に出て不良債権になり、また、街の北側地域一部が大火事の被害に遭い、これにより没落商人も多く出ることになる。

さて地方においては、気象などの自然条件で特異な産業がある。瀬戸内は古来より雨が少ないため米作にはハンデイがあつた。そのため麦栽培や綿作が多く見られた。このため終戦頃には瀬戸内地域で多くの紡績工場の立地がみら

れたものである。例えば讃岐においては豊浜の富士紡、丸亀、坂出の倉紡などなど。また塩田業では、西から仁尾、詫間、丸亀、宇多津、坂出、林田、王越・・などなど。

また雨の多かった阿波においては木材産業が有力であったが、吉野川流域では貞光川と吉野川が交錯する場所が、わたしは木材の集散地であったとする地理学的見解を持っている。先般この辺りに行く機会があり、当地を概観してみ、それらしき料亭宿泊施設や飲食店の多さから推測したものである。

一方、東の紀伊水道においては、那賀川が流れ込んでいるが、この川口近くの町である港町の小松島市や徳島市周辺はもう一方の阿波の木材集散地であつただろう。この那賀川の水量はむしろ吉野川より大きいとも言われている。川の水運を利用してこの川上から木材を搬出したと考えるのである。上流には有名な木材産地の木頭村がある。木頭村の金持ちは徳島市内に別宅を持つていて、そこから市内

の高等学校へ通つていた人達もいたようである。私の某先輩からもそうしていたと直に聞いたことがある。岡山県においても、旭川が県北深くから流れているので、水運を利用した木材運搬が想定される。この地域には今も木材産業が盛んであり、直交集成材製造で成功した有力な「銘建木材」が立地している。周辺環境や地域保有資産からその地方特有の産業が発展してきたのは自然のなせる業である。

また隣り合わせの県域においては、親密な補完関係が出来るのである。この例で有名なのが阿波と讃岐との関係で「借耕牛」の話がある。特に讃岐の中讃地域の田植え繁忙期には、吉野川流域の三好郡あたりから家畜牛を借りてきて田の掘り起こしに牛を利用していたのである。讃岐では耕作面積が小さい農家が多かつたため、農耕牛は飼育せずに、阿波の牛を借りて耕作していたのである。讃岐側では借りた牛を効率よく使用する農家もあつたため、牛はやせ衰えて帰ってくるものもあつた。この牛の悲しい物語

が歴史の中にあつた事実も知らされるのである。

さて大事に使用された牛は、讃岐の塩や小麦そして海産物などを牛の背中に載せて阿波へ帰つて来るのが一つ御風景となつていた。身近な関係にある阿波と讃岐の間には、「讃岐男に阿波女」とも言われ、気立ての良い女とよく働く男との組み合わせを認め合う風説をよく聞いていた。

また阿波の自然環境を概観してみると、水量の大きい河川があるため、木材産業や藍玉製造も比重が大きく、山林では民有林が多く、隣の土佐も民有林が大きなものである。これに引き換え、讃岐や伊予においては国有林が一般的に多いと言われている。この原因は、讃岐や伊予の重要藩は、維新時には徳川親藩側に与したことが原因とも言われている。阿波や土佐では、個人の保有する山林面積は大変多く、一雨降ればいくらか増量になるのか、そろばん勘定していた先輩を知っている。外材に押され、このところ国内木材も需要が停滞していたが、木材

加工の手法やSDGsの時代となり、再生可能な資産として最近では雲行きが良くなつてきているのではなからうか。
（地域資産の発掘と味付け作業）

私たちの住む領域には、その土地固有の優位な物的資産や無形資産、そして人材が埋もれているのである。山田方谷が指摘している「事の内」という近視眼的なものでなく、むしろ「事の外」という大局観（鳥瞰の目）でもって事象を観察すれば、新しい発見をすることにもなる。新しい発想を持った若者たちの当該地移入は面白いのではなからうか。徳島県域では那珂川上流地でのIT施策はその一例であろうか。また岡山県北地の東栗倉村での山村創生活動には多くの若人が参画しているのである。木材産出地として、木材を利用した家具や玩具の製造、また薬草研究者による薬草栽培など、その地の特性を考慮して多種の技術を持った若者が流入している。また行政機関も有利な施策で対応をしている。

（日本海から瀬戸内海、そして太平洋への縦の導線も考えてみる）

この地には戦国大名の三好氏の本拠地であつた。この三好氏が最近見直されてきている。古い町並みの再生又は復元を計り、一つの舞台製作と物語を関連させること。また特有の美味しい食べ物のメニューを試作しては如何なものだろうか。豊富な水資源と川魚やキノコ類の地場産品の発掘加工も出来るのではなからうか。

この吉野川流域の岩石は、地球の生い立ちが判る特異な地層が発見できる領域であり、研究対象として注目されている。この地で若い研究者は研究実績を積み重ねて中央に帰還するコースになっている。

また最近面白いプランが新聞に掲載されていた。三好市と琴平そして三豊市仁尾町の有形、無形資産の発掘、そして新しい「新猪鼻トンネル」の開通により一つの地域観光資源の商品化を発案した地元観光経済人の発案がそれである。



地球が燃えている

このところ、世界の各地において山火事が発生したり、豪雨が襲来したりしている。日本においても線状降水帯が至る所で発生して、河川の氾濫や山での崩壊による土石流の被害が甚大なものになっている。

この自然環境悪化の原因は、CO₂の増加による地球温暖化に起因していると公式に発表されている。これについては、わたしどもの同族である伊予新宮ご出身の真鍋淑郎先生等の研究者が指摘されている。このことにより二年前にノーベル物理学賞を受賞されておられるのはご存じかと思います。

地球が温暖化されれば、勢い海水面の温度が上昇して水温が高くなるのである。温かくなつた海面上の水は水蒸気となつて高く上昇する。そして冷やされると雨となつてまた地上に戻されるのである。海面上と上空との温度差が大きければ大きい程、空中の微粒子は激しく動きまわるので、大きな風や水となつて地球表面に影響を及ぼすことに

なる。この物理現象が徒ならぬ被害を人間に返してくるのである。「川を汚すものは、川からシッペ返し受けるのである」という古の諺を想いだす。

地球温暖化の現象については、長いスパンでの環境循環性とは考えられず、むしろ人間のなせる行動の結果から来ていると考えるのが妥当かもしれない。そう考えると人間の行動について詮索せねばならないのである。

これまでの資本主義経済の進展を考えてみれば、拡大生産と弱肉強食競争の世界歴史であった。経済競争という発展拡大の世界ばかりを見てきて、一方の社会発現現象の実態は、ややもすれば見捨てられてきたのではなからうか。特に欧米の理念として一時主導されてきた新自由主義経済は大いに問題の有つた理念ではなからうか。市場経済に任ずるのが良いと考えていたのであるが、これは強者側の心無い理念であろう。後進国や社会的弱者にとつては、無慈悲な環境下に置かれ推移していたこと

になる。従つて繁栄下のもとにおいても、常に社会面の影響なども総合俯瞰的に観察するという二面性も考慮に入れなければならないのである。はなはだ不均等になれば、進行を修正しながら実践すべきものであつた。事象の予測能力（事象発生予測）が欠如する事実は、おおむね硬直的機関に良く発生するものである。

この全体的俯瞰方策は、一国ではなく国際的な観点から実行せねばならないが、その機関は現在国連機構が主に実施しているが、残念ながら、国際問題の重要事項について覇権主義大国の拒否権行使により解決しないのである。環境悪化の原因となつているCO₂排出問題、ウクライナ問題、中東パレスチナ問題などの解決について大国の協調性は期待できていないのが実態である。外交上の主導による解決も出来ない由々しき課題問題となつていく。

地球資産は全生物の共有資産であり、特に土地はそこに住まうっている人たちが共存共生できる存在物であつてほしいのである。特定国の独占占有、改悪利用など許されるべきものでない

のである。また、自然界にある美しい形態物は、自然からの贈り物ものであり、崇拜の念でもつて対応すべきである。

例えば、イスラエル建国に際して、当時のイギリス、アメリカ中心の戦後処理対応に不手際があつたのではなからうか。複雑な環境の中でのイスラエル建国であつたように感じる。

また美しいものを創生する行為、また創生した物資を分解して次の世代に継承し、再生できる資財を産出するという循環できる社会体制を作り出さないことには、廃棄物の処理も出来ないことになる。人類が創造した産物は最後に自然に返さなければならぬ。出来ないのであれば、最初から創造してはならないのである。現今、SDGsの理念があまねく世界に浸透出来ているのか、人類の幸福のために強い監視が要求されるのである。最近では排水問題で「PFAS」が粗上にあがつてきているが、人類にとつて一番の重要概念（論理学上の上位概念）は「危機管理意識」であろう。

諸々の事情で世界の各地で問題が発生しているが、この原因は覇権的意志の強い人材や、独

占欲の強い人材が代表する覇権国家のなせる業なのである。将来を見据え、また、その結末を予想するという理念・哲学が時の主導者に欠如していることが問題である。昨今、各分野に登場している人材の言質を賢察してみると、甚だ軽薄なものと思わざるを得ないのである。名誉や地位の獲得が本題（目標）であり、彼らは哲学理念でもつて行動しないのである。即ち汗をかいて先導するというお手本を示さないのである。本実態が一般人に判らないのである。

何人も、美しい自然や創造された美しい造形物は、人類のみならず万物の共有財産であることを認識し、人類の幸せを希求した意志と熱情を期待したいものである。立派な先覚者である山田方谷先生や渋沢栄一翁両名の業績を覗いてみると、日本人の利他精神の権化である至誠惻怛の心の美しさを感じざるを得ないのである。



令和5年度一般会計決算

単位：円 自 令和5年4月1日 至 令和6年3月31日

収 入			支 出		
摘 要	予 算	実 績	摘 要	予 算	実 績
年 会 費 (全国役員)	@5,000×50 250,000	@5,000×50 250,000	各 地 区 補 助 金	74,000	61,600
	@3,000×65 195,000	@3,000×60 180,000	全 国 大 会 補 助 金	100,000	100,000
会報助成金	@1,000×80 80,000	@1,000×86 86,000	総 会 準 備 金	20,000	7,480
(一般会員)			財 政 部 費	(83,000)	(76,480)
計	525,000	516,000	・ 振 替 口 座 料	45,000	41,243
広 告 費	0		・ 事 務 ・ 通 信 費	30,000	27,757
寄 付 金	30,000	20,000	・ 会 費 振 込 票 印 刷 費	8,000	7,480
雑 収 入	4,000	2,800	広 報 部 費	(428,500)	(423,411)
貯金利子	7	5	・ 会 報 (65.66号)	350,000	345,510
郵貯残金			・ 郵 送 料	37,000	62,049
未収金戻入		7,701	・ 編 集 費	10,000	8,772
修正戻入		330	・ インターネット維持費	21,500	4,055
			・ 雑 費	10,000	3,025
			郵 貯 口 座 入 金		10,000
			調 査 研 究 部 費		
			女 性 部 費		
			事 務 局 費	(68,000)	(67,321)
			・ 事 務 費	20,000	13,178
			・ 慶 弔 費	10,000	10,900
			・ まなべ会栄誉賞		
			・ まなべ会功労賞		
			・ 感謝状作成費		
			・ 長寿記念品代	28,000	17,820
			・ 封筒作成費	5,000	21,143
			・ 雑 費	5,000	4,280
			税 金 (相 続 税)		
			全 国 本 部 役 員 会 費	25,000	79,259
			記念碑特別会計補助	0	0
小 計	559,007	546,836	小 計	798,500	825,551
前期繰越金	2,091,289	2,091,289	次期繰越金	1,851,796	1,812,574
合 計	2,650,296	2,638,125	合 計	2,650,296	2,638,125

次期繰越金明細は普通貯金 事務局長通帳 23,819円
国六財政部長通帳 488,755円 振替手数料 32,663円
国六財政部長定額貯金 1,300,000円 局からの通知料 8,580円
合 計 1,812,574円 合 計 41,243円

令和5年度継志館会計決算

単位：円 自 令和5年4月1日 至 令和6年3月31日

収 入		支 出	
摘 要	実 績	摘 要	実 績
貯 金 利 子	3		
小 計		小 計	
前期繰越金	1,339,901	次期繰越金	1,399,904
合 計	1,399,904	合 計	1,399,904

次期繰越金(残高)明細 定額貯金 1,000,000円
通常貯金 399,904円
合 計 1,399,904円



ようこそ
阿波大会へ

舞台イベントに見入る
会員たち

伊予まなべ会に
引きつかれた大会旗

フィナーレの阿波踊りで
大盛況の会場

令和6年度一般会計予算

単位：円 自 令和6年4月1日 至 令和7年3月31日

収 入		支 出		
摘 要	予 算	摘 要	金 額	小 計
年 会 費	@5,000×48=240,000 @3,000×60=180,000 小計(108) 420,000	各 地 区 補 助 金	60,000	60,000
会報助成金	@1,000×85=850,000 小計(85) 850,000 合計(193) 505,000	全 国 大 会 補 助 金	300,000	300,000
		総 会 準 備 金	10,000	10,000
		(議案書・役員名簿)		
		財 政 部 費	(82,000)	(82,000)
		・ 振 替 口 座 料	42,000	
		・ 事 務 ・ 通 信 費	30,000	
		・ 会費振込票印刷費	10,000	
		広 報 部 費	(435,000)	(435,000)
		・ 会 報 (67.68号)	350,000	
		・ 郵 送 料	60,000	
		・ 編 集 費	10,000	
		・ インターネット維持費	10,000	
		・ 雑 費	5,000	
広 告 費	0	郵 貯 口 座 入 金	10,000	10,000
寄 付 金	20,000	調 査 研 究 部 費	0	
雑 収 入	2,500	女 性 部 費	0	
貯 金 利 子	10	事 務 局 費	(59,000)	(59,000)
未収金戻入	6,045	・ 事 務 費	14,000	
		・ 慶 弔 費	10,000	
		・ まなべ会功労賞	0	
		・ まなべ会栄誉賞	0	
		・ 感謝状作成費	0	
		・ 長寿記念品代	25,000	
		・ 封筒作成費	5,000	
		・ 雑 費	5,000	
		全 国 本 部 役 員 会 費	25,000	
		記念碑特別会計補助	0	
小 計	533,555	小 計	981,000	
前期繰越金	1,812,574	次 期 繰 越	1,365,000	
合 計	2,346,129	合 計	2,346,129	

注1: 予算執行に際しては各項目間の流用を認めるものとする。

令和5年度記念碑特別会計決算

単位：円 自 令和5年4月1日 至 令和6年3月31日

収 入		支 出	
摘 要	実 績	摘 要	実 績
一般会計よりの助成		五稜郭公園保守管理費	70,000
千人碑申込金(仮受金)		千人碑建立代金	
貯金利子(定額)		代金払込手数料	
貯金利子(普通)	2		
小 計	2	小 計	70,000
前期繰越金	2,076,806	次 期 繰 越	2,006,808
合 計	2,076,808	合 計	2,076,808

次期繰越金(残高)明細 定額貯金 1,840,000円 合計 2,006,808円
通常貯金 166,808円



阿波大会では各アトラクションで会場は大盛況



兵庫まなべ会	眞鍋元保氏
兵庫まなべ会	眞鍋武彦氏
岡山まなべ会	眞鍋五男氏
讃岐まなべ会	眞鍋正清氏
伊予まなべ会	眞鍋勝義氏

阿波まなべ会 眞鍋 達男 氏
阿波まなべ会 眞鍋 泰典 氏
阿波まなべ会 眞鍋 徹一 氏

今後とも「まなべ」会員の一人として
交流と親睦を重ねて参りましょう。

開催地 愛媛県内会場

＊現在、伊予まなべ会や本部との連携により計画策定中であります。

震、そして初春には元環境庁長官の真鍋賢二さんのご逝去があり、今般の真鍋島の真鍋芳男さんの急逝などがありました。これらの事柄をも「まなべ一族」の歴史の一ページに書き入れて後世に残したいと思います。

後世に残したいと思います。

記録こそ後世の人達へのメツ

セージであります。情報を隠し

たり改ざんしたり、そして抹消

したりする輩が多くなりました

が、歴史を記録しない民族は、

彼らの後輩たちに歴史を復習さ

せず、歴史をも学習しない危険

性を与えるのではないでしょう

か。過去の実績・事実を知らな

いと、例えば外交交渉上でも不

利な状況に立ち至るのです。

＊竹島問題、尖閣列島問題など

やはり紙という帳票誌に残す

べきと強く思います。紙は各人

が手元にある手直な存在として

心して残る宝物ではないでしょ

うか。今年はどうな年であつた

のか、一瞥してわかるものと思

い参考までに飛躍して記述する

ものです。拙劣な文章、話題で

ありますが最後まで一読ください

い。感想をお寄せいただけは幸

いに存じます。

國六筆